

研究員 の眼

「高齢社会共創センター」構想

～高齢化課題解決の「技術」「知」を循環させる新たな拠点

生活研究部 主任研究員 前田 展弘
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)
(03)3512-1815 maeda@nli-research.co.jp

高齢化に伴う課題を解決する「社会技術」及び「科学技術」は日進月歩で開発が続けられている。例えば、今年3月には JST/RISTEX¹が支援してきた「地域コミュニティの中で様々な高齢化課題を解決する15のプロジェクト」(図表1参照)が全て終了したが、いずれも高齢化課題の解決に向けた素晴らしい社会技術を開発している。また同じく JST の S-イノベと称される支援事業においても、「高齢社会を豊かにする科学・技術・システム」として4つの新たな「科学技術」が創成されようとしている(図表2参照)。さらに、筆者が所属する東京大学高齢社会総合研究機構をはじめ、国立長寿医療研究センター、東京都健康長寿医療研究センター等の様々な研究機関においても、高齢化課題の解決に貢献する新たな「知」を産み出す活動が続けられている。しかしながら、こうした情報は自治体及び企業関係者をはじめ広く一般にはうまく伝わっていないのが現状であろう。

図表1：JST/RISTEX「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」のプロジェクト（2010～15年度）

分野	研究プロジェクト名	モデル地域
1 在宅医療	在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発	栃木県栃木市・茨城県結城市
2 健康（評価尺度開発）	新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発	東京都板橋区
3 ICT・生活支援	ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり	岩手県盛岡市・滝沢村・宮古市
4 高齢者就労	セカンドライフの就労モデル開発研究	千葉県柏市
5 社会参加（機器導入）	社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり	富山県富山市
6 災害・コミュニティ形成	「仮設コミュニティ」で創る新しい高齢社会のデザイン	岩手県大槌町
7 虚弱化予防	高齢者の虚弱化を予防し健康寿命を延伸する社会システムの開発	群馬県草津市・埼玉県鳩山市・兵庫県養父市
8 高齢者就労（機器導入）	高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発	奈良県下市町柘原地区
9 社会参加（機器開発）	高齢者による使いやすい検証実践センターの開発	茨城県つくば市
10 医療・介護	高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成	富山県砺波市
11 医療・認知症（評価尺度開発）	認知症高齢者の医療選択をサポートするシステムの開発	京都府京丹後市・京都市上京区・左京区
12 住環境・生涯学習・健康・ICT	健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造	高知県梶原町
13 災害・コミュニティ形成	広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成	福島県浪江町・二本松市・福島市
14 認知症・人材育成	認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証	愛知県大府市
15 コミュニティデザイン	2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術	福岡県福岡市東区・城南区

※詳細は <https://www.ristex.jp/korei/index.html> 参照

¹ JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構) RISTEX(社会技術研究開発センター)

図表 2 : JST 戦略的イノベーション創出推進プログラム (S-イノベ)
「高齢社会を豊かにする科学・技術・システムの創成」のプロジェクト (2010 年度～継続中)

	研究プロジェクト名	開発・研究リーダー所属機関
1	高齢者の記憶と認知機能低下に対する生活支援ロボットシステムの開発	国立障害者リハビリテーションセンター研究所・日本電気(株)
2	高齢者の自立を支援し安全安心社会を実現する自律運転知能システム	神奈川工科大学・トヨタ自動車(株)
3	高齢者の経験・知識・技能を社会の推進力とするためのICT基盤「高齢者クラウド」の研究開発	東京大学・日本IBM(株)
4	高齢社会での社会参加支援のための軽労化技術の研究開発と評価システムの構築	北海道大学・三菱電機エンジニアリング(株)

※詳細は <http://www.jst.go.jp/s-innova/research/h22theme05.html> 参照

こうしたなかで、それらの社会にとって有益な「技術」「知」を社会に広げる、循環させることを目的とした新たな構想が打ち出された。それが「高齢社会共創センター」構想である。起案者は上述した JST/RISTEX のプロジェクトをリードしてきた秋山弘子氏²であり、この3月に行われた JST 主催シンポジウム³でその構想が発表された。その概要は、理想の未来社会 (=「活力と魅力ある高齢社会」) を構成する要素として、①いきいきと活躍できる場がある社会、②少しでも長く健康でいられる社会、③虚弱になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる社会であることを掲げながら、「高齢化課題を総合的に解決することを支援する拠点」として『高齢社会共創センター』を設立するということである。当該センターでは、JST の支援により蓄積された前述の「技術」「知」のみならず、世の中に点在する高齢化課題解決に資する「技術」「知」を体系的に整理しながら世の中に広く発信すること、また課題解決を求める地域 (自治体) 等から要請があれば、その課題の解決に最適な「技術」「知」を提供するといった活動を想定している。当該拠点は 2017 年 4 月の設立を予定しており、より具体的な活動は今後計画されていくことになるが、現時点では、例えば、自治体向けに高齢化課題解決をリードできる職員を養成する研修事業であったり、前述したプロジェクトを実践した当事者 (専門家等) を要請のあった地域へ派遣 (紹介) するといったこと、またインターネットを介して課題解決の「技術」「知」を共有できる仕組みを構築するといったことなどが考えられている。表現が適切でないかもしれないが、当該センターは高齢化課題解決に資する「技術」「知」を適切に循環させる「総合商社」のようなイメージである。

改めてこの構想の意義を考えれば、日本はこれまで高齢化課題の解決に向けた総合的な政策⁴はあっても、それを総合的に推進する拠点 (エンジン) はなかったわけである。一部の地域あるいは一部の機関がそれぞれ独自の取り組みを重ねたものの、それらの「技術」「知」が社会に広く共有されることは少なかったと言える。「高齢化課題解決」という命題は、日本が未来を切り拓いていく上で克服しなければならない大命題であることは言うまでもない。それだけに社会に点在する「技術」「知」を総合的に把握し、適所に活かしていこうとする活動の意義は極めて大きいと考える。この構想が実効的な

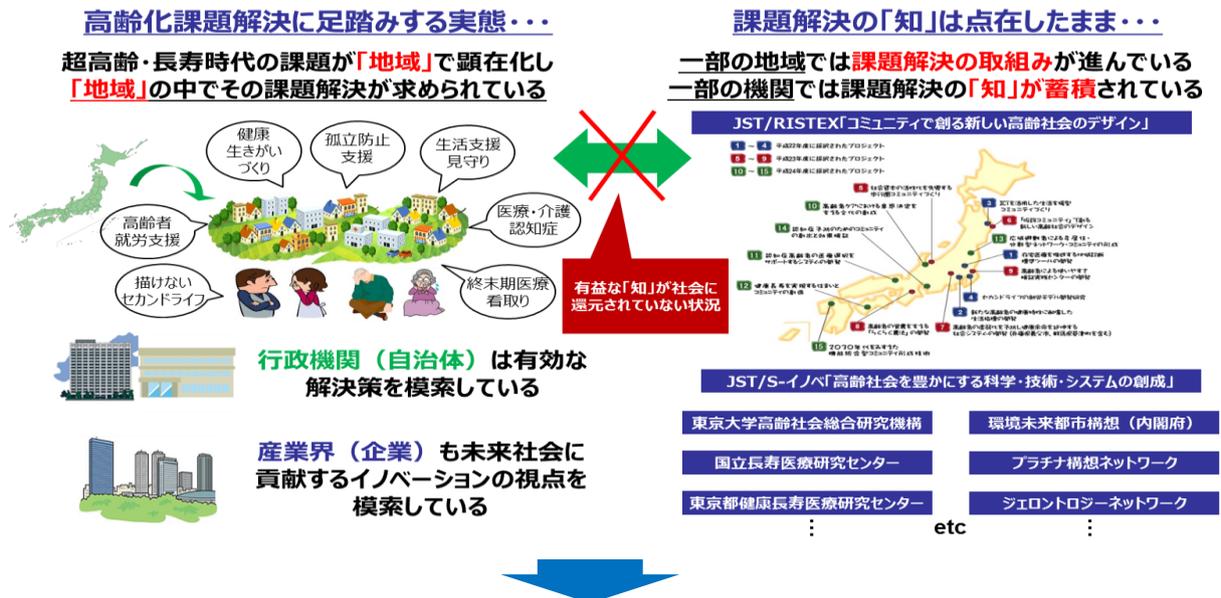
² 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授

³ JST/RISTEX 主催平成 27 年度領域シンポジウム「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」(2016 年3月4日 於:東京大学 安田講堂)

⁴ 高齢社会対策基本法及び高齢社会対策大綱

形で具現化できれば日本の未来に大きく貢献していくことになる。筆者もこの構想の具現化に協力していくが、絵に描いた餅にならないように、そして高齢化課題を克服した日本の未来の姿を世界に示していけるように、今後も精力的に取り組んでいきたいと考えている。

＜構想の背景と「高齢社会共創センター」の概要・イメージ＞



資料:筆者作成